

5 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制

1) 第一次世界大戦の展開

7月危機

1914. 6. 28. サライエヴォ事件

ボスニア 1908年 オーストリア＝ハンガリー帝国に併合

セルビアとの対立

cf. 「バルカン半島、1910年ごろ」マーク・マゾワ『バルカン — ヨーロッパの火薬庫の歴史』
一』井上廣美訳、中公新書、2017年所収

→対セルビア強硬論

ドイツへの打診 「白紙委任状」

1914. 7. 23. オーストリア セルビアに最後通牒

1914. 7. 28. オーストリア セルビアに宣戦布告

1914. 7. 31. ロシア 総動員令発令

1914. 8. 2. ドイツ ロシアに宣戦布告 シュリーフェン・プラン

1914. 8. 3. ドイツ フランスに宣戦布告

1914. 8. 4. イギリス ドイツに宣戦布告 ドイツ軍のベルギー侵犯

協商国 vs 同盟国

第一次世界大戦の原因論 cf. 第二次世界大戦

ドイツ責任論

フィッシャー論争 F・フィッシャー『世界強国への道』1961年

ベートマン＝ホルヴェークの「九月綱領」

戦争熱の高揚

イギリス アイルランド問題

女性参政権運動

労働運動

兵への志願者

ドイツ 「城内平和」

フランス 「神聖連合」

背景 戦争のイメージ

短期戦 「クリスマスまでに」

普墺戦争 普仏戦争

シェリーフェン・プラン

経済的理由

ノーマン・エンジェル『大いなる幻想』1909年

戦争効用論・戦争英雄論

戦争を知らない世代

1880年代以降生まれの学生・知識人の間に戦争賛美論強い

軍隊の大衆化

見えざる分裂

ドイツ 教養市民層と労働者

都市と農村

女性

志願の動機 失業対策 冒険心 白い羽

報道

西部戦線における塹壕戦

戦争の長期化

塹壕戦の過酷さ 「シェル・ショック」

→ 厥戦・反戦感情の高まり；戦前の国際体制への批判